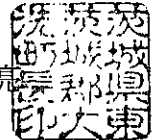


大都発第180号  
平成19年5月8日

国土交通省道路局長 様

大洗町長 小谷 隆亮



中期的な計画の策定にあたっての意見の提出について (回答)

国道企第114号で依頼のあった上記について下記のとおり回答いたします。

記

1. 重点化を進めるうえで特に優先度の高い政策

本町は年間400万人を超える観光客が訪れる観光地であり、特に観光客が集中する夏季及びゴールデンウィーク時は、高速道路からの本町への入り口となる東水戸道路「水戸大洗インターチェンジ」出口から高速道路の本線にかけて渋滞が発生するとともに、接続する国道51号、本町内の道路も渋滞となる。さらに、帰宅時には本町内はもとより同インターチェンジに至る国道51号はかなりの渋滞となる。この解消を図るためには、近距離にある北関東自動車道(東水戸道路)「水戸南インターチェンジ」へのアクセス道路の整備が急務となっている。この道路を整備することにより国道51号を通らずに直接海浜地区と接続されるとともに、国道6号、国道50号バイパスへのアクセスも向上する。このように、本町のような観光地への高速道路からのアクセスについては、複数に分散させるとともに、主要国道との広域交通体系の充実が必要である。

また、大洗鹿島線「大洗駅」から海浜地区に直結する都市計画道路「駅前海岸線」は、鉄道利用者が、徒歩圏となる「大洗港」や「海浜地区の観光施設」に向かう道路である。このような、賑わいと環境に配慮した、まちの顔となる道路の整備も必要である。

本町内を通過する国道51号沿いには、日本原子力研究開発機構「大洗研究開発センター」が立地しており、同センターから市街地に至る海沿いの区間は、交通量が多いにもかかわらず、歩道が設置されていない。交通量の多い箇所や市街地は、歩車道を分離することにより、歩行者等の安全を確保する必要がある。

2. 効率化を徹底的に進める上で重視すべきこと

道路整備を効率的に進めるには、土地の価格等の変動が少ないうちに用地取得をスムーズに行い短期間に完了させることが必要である。

### 3. その他、道路政策や道路整備・管理全般に関する意見

本町の道路整備状況は、一般国道や主要地方道等の幹線道路については比較的順調に整備が進められているが、既存道路については全般的に拡幅改良整備が遅れており、特に市街地では、幅員4m未満の狭隘道路が多数あり、市街地の道路の再構築が求められる。